

郡山医療生協対策本部ニュース

2012. 3. 29 No.300

対策本部ニュースが300号を迎えました。

2011年3月11日の震災から3日後の14日に第1号を発行してから、対策本部ニュースは本日付で300号を迎えました。ニュースの発行は、「情報を共有することが役職員の団結維持のためにも大切なこと」と位置づけ、対策本部として最も重要視してきた取り組みの1つです。ニュースでは、法人・事業所内の取り組み、全国から頂いた支援、時々地域の状況などを毎日お知らせしてきました。ニュースは、いつの間にか、医療福祉生協連や全日本民医連を通して、全国各地にも届けられるようになり、郡山の現状を全国に発信する役割を持つようになりました。

郡山の現状と支援の御礼を直接伝えるために…

対策本部は、「長期にわたる取り組みを進めるためには、郡山の現状と支援への御礼を直接伝えることが大切」と考えてきました。「要請のある限り、どこへでも出かける」とし、対策本部メンバーを中心に全国各地を訪問、報告活動を行ってきました。（これまでの経過は右図をご参照ください）看護師支援にお出で頂いた方を対象とした坪井院長の学習会も、こうした取り組みの一環です。

報告の場は、医療福祉生協連や全日本民医連の諸会議をはじめ、各単協の「健康まつり」、「組合員集会」、「職員研修会」など、千人を越す集会から数十人単位の研修会まで、対象者も規模も様々でした。会場では、「マスコミでは知らされない深刻な実態を初めて知ることができた」「どんな支援ができるか、長期間の支援を考えたい」などの感想が寄せられ、継続的な支援につながっています。また、支援にお出で頂いた看護師さん達が、新たな情報発信源となり、支援の輪が広がっています。

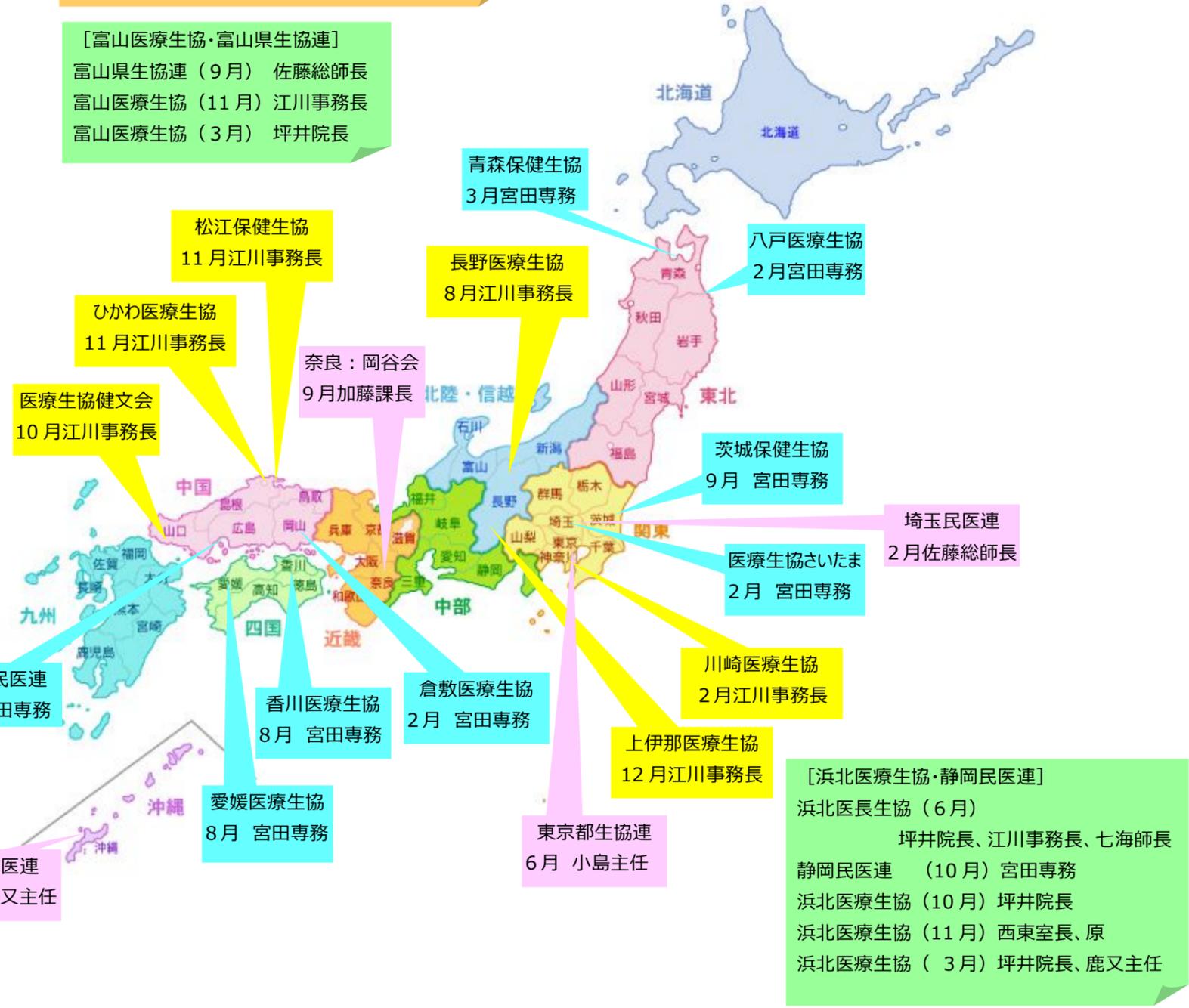
しかし一方では、「原発事故の受け止めの温度差が大きい、影響はもうなくなっていると思っている人も多く、ショックだった」（事業所利用委責任者会議に参加した六郎田さんの感想）が代表的なものですが、「廃炉へ向けた取り組みを進めるためにも、事故の影響を風化させないためにも、郡山の現状を発信し続けることが必要」というのは、報告活動を行ってきた役職員の共通の感想でもあります。

[全国会議等での報告]

医療福祉生協連師長研修（9月）	佐藤総師長
医療福祉生協連トップセミナー（9月）	江川事務長
地協経営検討会（12月）	江川事務長
東北ブロック政策討論集会（12月）	朽木事務次長
中四国ブロック組合員活動交流集会（2月）	宮田専務
医療福祉生協連事業所利用委責任者会議（3月）	六郎田

[富山医療生協・富山県生協連]

富山県生協連（9月）	佐藤総師長
富山医療生協（11月）	江川事務長
富山医療生協（3月）	坪井院長



[浜北医療生協・静岡民医連]

浜北医長生協（6月）	坪井院長、江川事務長、七海師長
静岡民医連（10月）	宮田専務
浜北医療生協（10月）	坪井院長
浜北医療生協（11月）	西東室長、原
浜北医療生協（3月）	坪井院長、鹿又主任